

「2008 年度明治大学自己点検・評価報告書」に対する 評価委員会による評価結果

I 総 評

自己点検・評価の結果、明らかとなった諸課題は、本学の発展にとって重要な課題である。特に、①教育目標の明確化、②グランドデザインの策定、③教育・研究の国際化の推進、④学生生徒納付金に依存しない教育研究経費の確保、⑤教育・研究の質向上のための取り組みの推進について、大学は明治大学自己点検・評価規程第 17 条に基づき、下記のとおり、具体的措置を早急に講ずることを提言する。

II 明治大学自己点検・評価規程第 17 条に基づく大学に対する提言

1 教育目標の明確化

学生教育を重視する姿勢を教育理念として明らかにし、本学に相応しい教員像、学生像を掲げ、これを校風として実践することが、社会的評価を高めるために必要である。そのため、これら理念、方針を憲章等として具体的に定め、“明治の教育”を広く社会に明示すること。

2 グランドデザインの策定

国際化、高度化する現代社会を背景として、今後の大学教育は、個性化、特色化に伴う多様性と国際的な質を保證する標準性の両者に配慮しつつ、少子化に対応した新たな展開が求められている。本学の教育体制が、社会情勢や教育理念に照らして相応しい学部構成、学生数であるのかを検証し、新学部・学科等の設置やキャンパスの再編、教育研究施設の充実等、教育研究の質向上を推進するグランドデザインを策定を検討すること。

また、長期計画に基づく学部、大学院並びにこれらの教育研究施設のあり方について、特に駿河台地区、猿樂町地区の将来計画を策定すること。

3 教育・研究の国際化の推進

2009 年度に採択された文部科学省国際化拠点整備事業（グローバル 30）によ

って国際化の充実が図られているが、特に以下の事項について具体的に検討すべきである。

(1) 海外への研究成果発信の強化

国際化拠点大学として、海外から将来性の高い学生を募集し、研究者を招聘するには、英語によるホームページを充実し、本学の諸活動を海外に発信することが重要である。特に、研究成果の海外に向けた情報発信として、学術・研究成果の翻訳支援、国際的学術雑誌への投稿支援、学術成果リポジトリ搭載等による情報発信支援等を強化すること。

(2) 留学生受け入れのための寄宿舍の整備

今後見込まれる受け入れ留学生の増加に対応して、滞在施設の整備は急を要している。2009年度に竣工した和泉インターナショナルハウスに続き、新たな寄宿舍の整備を望む。設置計画にあたっては、留学生と日本人学生が交流可能な宿舎となるよう留意すること。

4 学生生徒納付金に依存しない教育研究経費の確保

新しい教育の展開や研究資金の確保について、帰属収入に占める学生生徒納付金の比率を下げる工夫が引き続き必要である。特に以下の事項について推進すべきである。

(1) 研究資金の確保について、科学研究費補助金の採択件数や採択金額を高める工夫をより一層充実すること。特に、研究施設の充実や研究者の研究時間の確保等、研究環境の総合的な整備計画を策定すること。

(2) 新しい教育の展開については、引き続き競争的補助金への応募、採択に向けた支援を充実するとともに、経常費補助金特別補助で重視されている項目（例えば、大学院の教育研究基盤の整備等）での申請を工夫し、外部資金の増額を図ること。

5 教育・研究の質向上のための取り組みの推進

自己点検・評価や「改善アクションプラン」の実施によって、教育・研究の改善が着実に図られているが、今後、更なる質向上に向けた取り組みを推進するにあたり、特に以下の点について留意されたい。

(1) 自己点検・評価における数値情報の収集・分析の実施

自己点検・評価結果を教学支援に活用するためには、数値情報を収集・分析し、客観的に問題点を把握することが欠かせない。そのため、例えば文部科学省の競争的補助金（G P等）の採択件数や、科学研究費補助金の採択数、論文の海外発信件数等について、経年変化や他大学との比較等を取り入れ、的確に問題点を浮き彫りにできる評価環境を整備すること。

(2) 中退者数の公表と学生支援の充実

教育の質保証の状況を明らかにするため、中退者数（退学，除籍），中退理由，学費未納者，学費延納状況等を公表すべきである。その上で、奨学金制度の改善や修学支援の充実等，その問題解決に向けた計画を策定すること。

(3) 経済状況に左右されない安定的な就職支援の実施

昨今の経済状況の悪化への対応として、奨学金等の充実も必要であるが、確実に就職に結びつけるための就職支援の充実に力を入れること。

(4) 高大連携による付属校，系列校における自己点検・評価の推進

付属校，系列校は本学の中核的人材を育成する重要な役割を担っている。付属校・系列校についても自己点検・評価を実施し，高大連携の観点から検討すること。

(5) 第三者評価の推進

現在，各部門において多様な第三者評価が実施されているが，全学的な自己点検・評価においても，最も身近なステークホルダーである学生や卒業生，在学生父母等による評価にも取り組むこと。

以 上